

# 家畜衛生情報 (牛編)

## 牛の「下痢」にご注意を！

生産成績に悪影響を及ぼす牛の下痢には、感染性と非感染性がありますが、**感染性下痢**の中では特に下記の疾病にお気を付け下さい。



感染性下痢	注意が必要な週齢	下痢の特徴
サルモネラ	0～24週齢	水様で粘液、偽膜や血餅が混じる。
ロタウイルス	0～1週齢	黄～黄白色の水様性下痢。
クリプトスポリジウム	1～3週齢	灰白～黄色かつ泥状～水様の粘液を含む。
コクシジウム	3～12週齢	粘血便や偽膜が混じる。

## 牛の「サルモネラ症」とは？

- サルモネラ菌を**経口的**に摂取し、腸管内で増殖することにより発症する下痢、腸管粘膜から体内に侵入した菌により肺炎や関節炎、流産、神経症状などが認められることもあります。
- 保菌牛の**導入**、鳥類を含む**野生動物**による農場への持ち込み、**汚染飼料**を介した感染などが考えられます。
- 保菌牛の**速やかな隔離**と生菌剤による対症療法等と農場消毒が必要です。



6月以降管内の複数の農場でサルモネラ症の散発的な発生が認められています。農場内で下痢が続くようでしたら、当所までご一報ください。(TEL: 0858-26-3341)

非感染性下痢の要因として、以下が挙げられます。

非感染性下痢	具体的な要因
食餌性	食べ過ぎ、飲みすぎ、 消化に悪いものを食べた等
神経性	長期輸送、換気不足等のストレス
環境性	寒冷、風、湿度、敷料の状態等
消化器性	異物を食べた、 <b>モネンシンショック</b>

### 【基本的な下痢対策】

- 子牛に**初乳**を十分に飲ませる。
- **病原微生物**の農場への持ち込みと拡大を予防。
- **飼養衛生環境**を適切に保つ。
- **生菌剤**や**ビタミン剤**を用いる。
- 子牛の**便**や**体調の変化**に細かく気を配る。



### モネンシンをご利用の農家様へ

- モネンシン添加飼料の**給与を急に中止すると、モネンシンショックをひき起こす**事が知られています。
- モネンシンショックを引き起こすと、**下痢が長引きその後の飼育に重大な支障**をきたします。
- モネンシンショック対策として段階的にモネンシン給与を減らし切っておく必要があります。
- 和子牛の場合セリまでに段階的にモネンシンを切っておかないと**購買者とのトラブルや風評被害の原因になる可能性**がありますので、十分にご注意ください。

# 埋却地の確保をお願いします

◆口蹄疫等の家畜伝染病が発生した場合、まん延防止のために家畜を処分し埋却することとなります。

◆家畜伝染病が発生してから**埋却地**を選定するのでは迅速な封じ込めが困難となるため、飼養衛生管理基準において、**あらかじめ家畜の所有者が準備**することと定められています。

◆埋却地面積（含作業面積）の目安：**成牛一頭あたり5 m<sup>2</sup>**  
少なくとも上記の面積の確保をお願いします。  
家畜伝染病発生時には**汚染物品（糞尿・飼料・敷料）も埋却**しますので、実際は上記よりも広い埋却地が必要となります。

## ○農地転用制度について

農地を耕作しない方であっても、農地転用を行えば埋却予定地を確保することができるようになります。

農地転用の詳細はQRコードからご覧頂けます。



（農林水産省ホームページへ）

ご不明な点がございましたら県や市町にご相談ください

## 令和4年度 倉吉家畜保健衛生所スタッフを紹介します

所長 井上 禎文 病性鑑定室長 下岸 照和

次長（衛生指導担当課長補佐兼務） 山根 法明

### 《 衛生指導担当 》

技師 三井 香保  
技師 松居 裕司  
会計年度 柄 裕子  
会計年度 牧田 知美

### 《 防疫担当 》

課長補佐 大石 美智子  
課長補佐 錫木 淳  
技師 米原 尚子  
技師 網谷 祐汰

### 《 病性鑑定室 》

課長補佐 岡田 綾子  
技師 岸田 祐  
技師 田中 勝貴  
技師 山崎 健太  
技師 高木 翔矢  
会計年度 井戸 智子

### 《 CSF・ASF検査施設 》

会計年度 森本 一隆  
会計年度 手嶋 寿幸

家畜に異常を見つけたら/家畜衛生に関する問い合わせは…

倉吉家畜保健衛生所（0858）26-3341（夜間・休日は緊急連絡先に自動転送）

\*この情報は家保が配布した紙ファイル等に綴って下さい\*